

結城の高校生がタイで教育交流

結城市とタイの教育交流で、結城一高と鬼怒商業の生徒たちが8月4日から11日まで、メーサイ市とパヤオ県ムアン市を訪問し、タイの高校生と交流しました。訪問したのは、結城一高の市川英樹教頭と2年生の小川由美さん、江連桃奈さん、鬼怒商の川松秀夫校長と2年の栗原あいさん、池田真愛さんの6人。

一行は、パヤオピタヤコム高校の日本語教室で一緒に勉強したり、バンコク・パヤオ間のチャリティーマラソン大会の応援練習に参加したりしました。メーサイ高校ではキャンプに参加、日本語教室や料理教室、母の日セレモニーなどにも参加。今年4月に約1カ月間、来日して日本の教育を体験した両高の生徒4人も再開し、楽しい時間を過ごしました。

高校訪問以外にもメーサイ市役所やムアン市役所、麻薬博物館、ドイトンガーデン、寺院などを見学。池田さんは「タイは寺院が多く、とても信心深かった」、栗原さんは「タイの高校では外国語ごとに教室が分かれていたり、図書館も立派で、日本より充実していると感じた」と話していました。小川さんは「建物がきれいで、日本と違わない」、江連さんは「クーデターが多いと心配だったが、行ったらみんなとても親切だった」と感想を話していました。そして4人は「もっと、授業などに参加して、タイの高校生と交流する時間をもちたかった」と話し、「グローバルな視点を持って、またタイや海外に行ってみたい」と、将来についても話していました。

平成 29 年 9 月 15 日

